



発行所：特定非営利活動法人ベトナム子ども基金

〒113-8642 東京都文京区本駒込2-12-13 アジア文化会館内

電話/FAX：03-3945-2415

E-メール：info@v-c-f.org ホームページ：http://www.v-c-f.org/

# ベトナム子ども基金通信

No.58  
2013.3.30



ゴミ収集の仕事をするお母さんに付いていくニーちゃん(2013.3 ホーチミン市内)

私が市内によく見かける親子がいます。そのお母さんの名前はホアさん50歳、女の子はニーちゃん6歳です。でも、彼女たちは本当の親子ではありません。ニーちゃんは捨て子だったのです。

ある朝、ホアさんは公園の近くの道端で黒いビニール袋が動いているのを見つけ、開けてみると赤ちゃんが真っ赤な顔をして泣いていました。まだへその緒を切った痕が残っており、生まれて1カ月もたっていません。粗末な服を着ており、貧しい親が捨てていったのでしょう。

ホアさんは旦那さんとゴミ収集の仕事をしています。町のゴミ箱からゴミを回収し、その中の空のペットボトルなどを売って生活しています。貧しい家庭ですが子どもがいないホアさんは、ニーちゃんがかわいそうで何とか自分たちで育てたいと思いました。ニーという名前も自分で付けました。

しかし、赤ちゃんがいるとホアさんは仕事ができなくなるので、旦那さんのミンさん(60歳)は強く反対しました。たくさん夫婦ゲンカをしました。それで、孤児施設のある病院(ツーズー病院：ベトナムドクちゃん)で有名ですね)に預けようと、ニーちゃんを連れて行きました。ところが、病院の門に近づくとニーちゃんは激しく泣き出し、3回行きましたがかわいそうで預けることができませんでした。ホアさんは運命を感じ、自分で育てる決心をしました。

半年がたった頃、ミンさんもニーちゃんを好きになり、貧しいけれども2人で育てていくことに賛成してくれました。仕事もホアさんが午前中、旦那さんは午後からと分担してニーちゃんを育てています。

6歳になった今、学費を援助してくれる人のおかげで、ニーちゃんは幼稚園に通っています。でも、

医師の診断によると、ニーちゃんは軽い自閉症を持っており、両親以外と話をしたり、触れ合ったりすることは難しいのです。

ニーちゃんは時々、「私はどこから生まれたの?」「私はお父さんの子どもなの?」と無邪気に聞くそうです。ホアさんは、「私のここ(おなか)から生まれたんだよ」「そうだよ、私たちの大事な子どもだよ」と答えるそうです。

高層ビルが増えて豊かになったホーチミン市。その町で、貧しいながらもホアさん一家はひっそりと、自分たちで幸せを作り出して暮らしています。

注：ニーちゃんは捨て子であったことを知りません。掲載はホアさんの許可を得ています。

くろは まい  
(黒羽 マイ)

ホーチミン市  
グエン・ディン・チュー盲学校教師

# 着実に積み上げてほしい、君の未来

今回は渡越8回目にして、初めてハノイおよびベトナム北部を訪れました。1月のハノイは常に霧雨に包まれているような天候で、現地の方々も大層な厚着でしたが、真冬の北海道から乗り込んでいった私たちにとっては、優しい春のような暖かさに感じられたものです。

ハノイ市内にチェックインした翌日。里子のアンくんの面会の案内をしてくださる方が変更になったとのことで、予定のカインさんに代わり迎えに来てくださったのは、日本においでになったご経験もおありのホアンさんでした。アンくんと同じナムディン省のご出身だとか。礼儀正しい青年で、タブレット端末を自在に操って私たちの案内・通訳を務めてくださいました。前夜、伝統芸能Ca Tru(カーチュー)※1を楽しんできた、という私たちに「ええ～アレ、面白いですか?」との、今風の若者らしい発言もありましたが(笑)。

ナムディン市までは、車で2時間もかかったでしょうか。まずは、こちらで市の奨学会を訪問させていただき、ナムディン省での奨学会の実績や、これから向か



山本さんご夫妻とアンくん、関係者

うアンくんの住む村についてレクチャーを受けます。事前に子ども基金事務局でも伺いましたが、ナムディン省はこういった奨学金助成の活動がかなり活発なんだな～という印象を受けました。青葉奨学会は、その何十もある奨学会の一翼という位置づけ、でしょうか?※2

現地の方々によると「日本で大流行」(?)の、回転鍋をお昼にご一緒させていただいた後、いよいよアンくんの住む村へ向けて出発です。車はナムディン省の田舎へと入っていき…気が付くと、お迎えのバイクが車と並走しており、一軒のお宅へと誘われ…到着。アンくんと彼のお姉さん、地元の奨学会の方々・村のお歴々と総出で出迎えてくださり、大変恐縮いたしました。

アンくんは緊張しているのか(?)大人しい印象でしたが、将来は公安の職業に就きたいとの希望を、率直に語ってくれました。私たちも彼の成長を見守りつつ、その力になれるよう努めていきたいと思います。

私たちのお土産は、北海道銘菓と文房具(5色ボールペン)。そしてよく遊ぶことも大事、ということで「ジェンガ」!!※3

ジェンガを目にするのは、みんな初めてだったそうです(ホアンさんのみ日本で見たことがあると、言っていました)。早速アンくんと、彼のお姉さんも交えて一緒に遊びましたが…見守る大人たちも大歓声を上げながら、楽しい時間はあっという間に過ぎて

しまいました。

アンくんは、突然北の果てからやってきた日本人を、どう思ったのでしょうか?彼が、自身の未来に向かって邁進できるように願ってやみません。また、今回のナムディン行きは、私自身が得るものも多く、深く胸の奥に残るようなインプレッションと、日本人として考えるべきところを示してくれました。今後ともこの活動に関わりつつ、アンくんとその後続く子どもたち・ベトナムの将来を注視し続けたいと思います。



山本さんとアンくん

やまもと てつや  
(山本 哲也)  
里親会員

※1 Ca Truとは世界文化遺産に指定されているベトナムの伝統芸能。弦楽器、打楽器、太鼓といった3つの伝統楽器の哀切感ある調べにベトナム古語の詩を乗せて、歌手が情感豊かに歌い上げるもの。

※2 青葉奨学会は民間の奨学金支給団体で地方奨学会は政府機関。

※3 木片を積み上げて作ったタワーを崩さないよう、下段の積み木を抜き取り最上段に積み上げていくゲーム。ゲーム参加者が交代でこの作業を繰り返し、バランスを失ってタワーを崩壊させると負け。

## 青葉奨学生を訪ねて

昨年10月、スクールがたたきつける中、青葉奨学会のシュンさんと、ホーチミン市の中心から少し外れたビンタン

区にあるフードン小学校を訪ねました。外観は都市部にある学校らしく、周囲は柵と塀に囲まれ、コンクリートで

固められた校庭、4階建ての校舎と、どちらかというとも日本の都市部の学校に似ています。これまで地方で見してきた、

木々に囲まれ、土の校庭と平屋建ての校舎の学校からするとはるかに近代的な印象を受けます。現在こちらの小学校には5名の青葉奨学生がおり、そのうち3名に子ども基金の里子として奨学金の支給をしています。学校に入ると早速、長年こちらに勤めていらっしゃる副校長先生とスタッフの方が出迎えてくださり、開口一番、青葉奨学金の支援に感謝しており、奨学金は子どもたちの励みになっているとお礼の言葉をいただきました。続いて学校の活動や、生徒たちについていろいろお話を伺いました。



雨に霞むフードン小学校

ビンタン区は1区と運河を挟んで隣り合っており、1区に近い辺りは高級アパートが増え外国人の間でも人気があるそうです。それに対して学校の周辺の19地区、21地区は地方出身者が増加しており、したがって労働者世帯が多く、家庭の経済状況も決して良くありません。中には放課後、宝くじ売りをして生活費を稼ぐ児童もいます。このような環境ですので、区内の学校の中でレベルはあまり高くないそうです。それでも、学校のカリキュラムをいろいろと工夫して、子どもたちの学習意欲を高めようと努力されています。授業は全日制で（一部地方の学校では教室が足りないため2部制で授業を行っているところもあります）、子どもたちは朝7時から10時20分までの午前の授業で、主要

科目の新しい勉強をします。その後給食を食べ、昼寝をした後、13時45分から16時までには復習をしたり、課外活動、特に授業は音楽や美術など、リラックスしながら学習できる教科を配しています。夕方まで子どもたちを学校で過ごさせるには、親が亡くなっていたり、働いているので帰宅しても行き場のない子どもたちの面倒を見る意味もあるそうです。現在28クラスあり、1年生が最多の234名、全5学年1020名が在籍しているの、ちょっとしたマンモス学校ですね。これまでのお話から、周辺環境や、あまり良くない家庭状況から、1年生が多いのは、その上の学年になるにしたがって、やむを得ず学校をやめてしまう生徒がいるからではと考えました。そのことを尋ねると、予想に反して、途中でやめる子はほとんどいないとのこと。子どもが休んだりすると、家庭に連絡し、特に貧しく学校に来るのを躊躇する場合は、学校から文房具や、教材の支援をするそうです。残念なことに1人学校をやめた4年生の児童がいますが、聴覚障害があり授業についていくことができず、治療を優先しているとのことでした。学校に戻って勉強を続けられるか未定で、今後のことを先生も心配していらっしゃいます。そのほかに発達障害のある子どもも受け入れ、ほかの子どもたちと同じように教育を受けられるようにしているというので、とても先進的な取り組みだと感じました。

子どもたちの教育を工夫するために教職員も教育受け、授業研究に参加しコンテストにも出場するそうです。政府の指導で選択授業がないため、芸術性を養うために行った課外授業の成果として4、5年生



ベトナムらしいデザイン、きれいな夕日のグラデーションにやしの葉の緑が映えます。漁をする女性の頭にはキン族の伝統的な帽子Non la(ノンラー)

を対象にしたアオザイ（ベトナムの民族衣装）のデザイン画をたくさん見せていただきました。さらに、公衆衛生という少し大げさですが、HIV感染予防の教育にも力を入れており、児童4人で45分かけて作成したちぎり絵のポスターを拝見しました。こちらは賞を受賞した作品です。



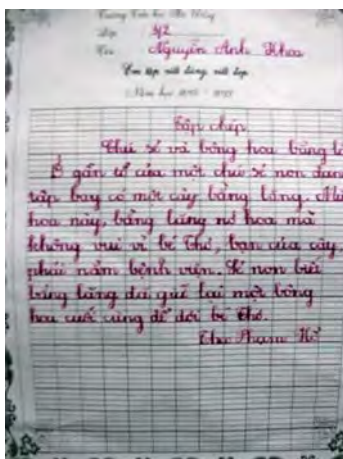
HIV感染予防を啓発するポスター。生徒たちの力作

ベトナムでは1990年に最初のHIV感染者が確認されてから、その数は増える一方で2012年11月現在、ひと月で1000人以上増加しているとのこと。国でも2020年までに人口比0.3%以下に感染者の数を減らす目標を立てています（日刊ベトナムニュースVIET J0より）。

学校での予防教育は、多くの子どもに正しい知識を身に

付けさせる効果的な方法です。現在は治療方法や、母子感染対策などが非常に進んでいるので、万が一感染した場合の対処の仕方なども学ぶ必要があるでしょう。ほかの学校で同様の教育が行われているかは不明ですが、全国的に教育が広がるのが望ましいですし、青葉奨学会を通して、何か情報発信できる可能性があるのではないかと感じました。

先生方からいろいろ説明していただいた後、校内巡りです。校舎は建設されてから長い時間がたっているので、設備が不足したり、補修する必要な部分があるそうですが、なるべくお金をかけずに、保護者やOBに協力を呼びかけて行いたいとのこと。確かに上層階に移動する外階段は、土砂降りの雨のせいもあり、水が流れ込んでいましたが、学校全体の印象はとても清潔感があり、そしてカラフルです。踊り場には、何やら児童たちがノートに書きつけた文字を写した写真が、誇らしげに掲示されています。何でもつづり方コンテストで入賞した児童のものだそうで、ベトナム語特有の飾り文字で1文字1文字、非常に丁寧につづられています。里子の手紙にはこうした文字で書いてくる子どももいますので、きっと目にされた方もいらっしゃるでしょう。先生に、男の子と



ます目にきちょうめんに書かれた字

女の子、どちらが字がきれいかと尋ねると、笑いながら「女の子のほうがきれいに書きます」と。

中秋節（旧暦の8月15日）から間もないため、廊下や教室には、ぼんぼりや紙の飾りが残されています。内階段にはベトナムの歴史上の英雄の物語を力強く表現した絵が描かれ、また、低学年の教室の廊下には、算数の九九や足し算の簡単な問題が見やすく書かれ、きっと無意識のうちに頭の中で計算する習慣がつくことでしょう。ふと、前日訪れた、地方の学校の子どものことが思い出されました。あの子たちがこの校舎に足を踏み入れたら、どんな反応をするのでしょうか。



踊り場に描かれた絵

今度は校庭を横切って高学年の教室のある建物へ。乾季が近づいているにもかかわらず、激しい雨が降り続き、足下を川のように雨水が流れていきます。これでは子どもたちも教室にこもっているしかなく、ちょっとかわいそうです。3年生、4年生と教室を順番に見て回ります。そのときひとりの少女が先生に連れられ、私たちに近づいてきました。彼女は4年生のファム・ホアン・アン・トゥーさん。とても緊張した面持ちで腕を前に組み（ベトナムで目上の人に丁寧にあいさつするときの仕草）「青葉奨学生として支援をしていただきとても感謝しています。これからも一生懸命頑張ります」とあいさ



緊張した面持ちのトゥーさんと対面

つをしてくれました。さらに付き添っている先生が「彼女は今、クラス長をしている」と誇らしげに説明してくれます。話を聞くとクラス長は1カ月ごとに替わり、先生の指示によってなる場合と、立候補してみんなに選ばれてなる場合があるとのこと。彼女にクラス長として何をするのか質問すると、「毎日みんなをまとめ、遊ばないように注意します。特に先生が変わる授業（音楽、美術）で子どもたちが席を替わったりするので、騒がないように注意するのが大変」。日本とほとんど変わりはありませんね。授業中だったので、トゥーさんとはいったん別れ、後でほかの青葉奨学生と一緒に話すことにしました。

さらに見学を続けると、教室にはいろいろ目を引くものがあります。まずはあるクラスの先生の机の隣に置かれた、黄色のかわいらしい豚の貯金箱。ただの飾りなのかと思ったら、貯金箱に子どもたちが少しずつお金をためて、金銭的余裕のない友達のために使うとのこと。ほかにはガラスケースに入れられたコップとタオル。低学年の校舎では金属製のスタンドに、おそろいのプラスチックのコップと白いタオルがかけられていましたが、こちらは、小さい子どもたちが使いやすいように工夫されていたのでしょう。1日の大半を学校で過ごしなが、手洗い、うがい、



教室に置かれたコップとタオル。  
頑丈なケースに収納されています

歯磨きなどの衛生的な習慣を身に付けることができます。

さて学校の中を1周して、先ほどのトゥーさんを含め3人の青葉奨学生と対面です。図書室で待っていると、トゥーさん、3年生のホー・バオ・ゴックさんと5年生のレー・クアン・ヴィンくんがやってきました。ヴィンくんは5年生ということもあり、体が大きく思わず「一番大きいの？」と尋ねると「そうかもしれない」と初めて会う日本人にちょっと緊張しながら、でも興味津々という表情で答えます。最年少のゴックさんはちょっと足が不自由なため、先生に支えられながらゆっくり部屋に入ってきました。そして3人とも前もって用意していたプレゼントを次々に手渡してくれます。お茶や、小さな人形、きっとそれぞれが考えてくれたのでしょう。予期せぬことで胸がいっぱいになりました。こちらからも、



クラスに置かれた貯金箱。みんなのお小遣いが入っているのでしょうか

持参したお土産（チョコレート、歯ブラシ、多色ボールペン）をひとりずつ渡し、プレゼント交換を終え、早速3人に話を聞きます。



プレゼントを手渡してくれるヴィンくん

以下は3人とのやりとりです。

——青葉奨学生に決まったときの気持ちと、まず誰に話したか教えてください。

**ヴィン** うれしかったです。お母さんに話しました。

**トゥー** うれしかったです。お母さんに話しました。

**ゴック** うれしかったです。

先生から、ヴィンさんは両親がいないため、親戚、近所の方が育てているとのこと。

——青葉奨学金をもらってどういう気持ちになりましたか。

**ヴィン** これからもっと勉強します。

**トゥー** お母さんのために優秀な成績をもらうようにしたいです。

**ゴック** 体が弱いけど、もっと頑張りたい。

——好きな授業は。

**ヴィン** 数学。理系の勉強が好きで将来エンジニアになりたい。

**トゥー** 国語。国語の先生になりたい。

**ゴック** 英語。英語の先生になりたい。英語ができるようになったら外国に行ってみたい。

そこで、ヴィンくんから日本語が分からないから質問で

きない、とちょっと残念そうに言われました。私もベトナム語ができず、すべて青葉奨学会のシュンさんに通訳をお願いしているので、何か私に聞きたいことがあれば、質問するように促すと、ヴィンくんは「日本の桜が好きです」と。たまたまスマートフォンに桜の写真を保存してあったので、それを見せると、ちょっと自分のイメージと違うものを見たようなそぶりを見せました。どういうイメージをしていたのか聞きそびれましたが、それではと、今度は違う質問です。

——日本について知っていることは。

**ヴィン** 東京タワー、ドラえもん、漫画とテレビアニメ。

**ゴック** ドラえもんが好き。理由はポケットの中からいろいろなものが出てくるから。

**トゥー** ドラえもんのしずかちゃんがかわいい。

**ヴィン** のび太が好き。なぜなら、人に優しくいい人で、友達に優しいから。

ドラえもんの話になると、どんどん子どもたちの間で話が盛り上がります。それにしてもヴィンくんののび太の捕らえ方は目からうろこでした。私が子ども頃はこのび太の優しさより、きつとうまく立ち回りできない、不器用な性格の方が目立って感じていただろうなあと。

ちなみに、現在は東京タワーよりももっと高い東京スカイツリーが完成して、東京の新たなランドマークになっていることも話しました。3人とこんな話をしながら、彼らだけでなく、多くの里子たちに、日本のことももっといろいろ知ってほしいな、興味を持ってほしいなという気持ちが芽生えました。

さて、また学校生活の話に戻り、ゴックさんから得意科目が英語だとの話があったので英語について質問してみます。

——小学校だけど英語の授業はみんな受けるのですか。また英語を習っている感想は。

**ゴック** 英語は選択制の授業です。動物の名前や月、あとはHelloの歌。

**トゥー** 英語は面白いです。

**ヴィン** 英語は勉強しています。だけど数学のほうが好き。

さすがに、ゴックさんは好きな科目とあり、いろいろ話してくれますが、トゥーさん、ヴィンくんの順番にトーンダウンしていきます。先生から選択制とはいえ、ほとんどの子どもが授業を受けているとの話で、小学校から英語教育に取り組むのは、やはりホーチミン市の学校らしいですね。続いての質問です。

——学校の宿題はいつやるのですか。

**副校長先生** 宿題は午後学校で行い、暗記ものなどは家でやります。

確かに、親が面倒を見ることができない場合も多いとい

う話でしたので、宿題というよりは、実質、補習という形で復習しているようです。

——では家では何をして過ごすのですか。

**ヴィン** 家の掃除をして、少し宿題をします。さらにお手伝いをしたらご飯を炊いたりします。大体午後9時に寝て午前6時に起きます。

**トゥー** 宿題をして、家の手伝いをします。その後、本や昔話の漫画を読んだりします。午後10時に寝て午前6時に起きます。

**ヴィン** ドラえもんを読んで、宿題をします。大体午後10時に寝て午前6時に起きますが、時々10時まで起きていると眠くなることがあります。

——好きな食べ物は。

**ゴック** フライドポテト、フライドチキン。

**トゥー** ピザ。

**ヴィン** 煮魚。ご飯もたくさん食べます。

さすがに、都会っ子らしい返事です。最後のヴィンくんの煮魚という返事にちょっとほっとしました。子どもたちはまた授業に戻るとのことで

最後に記念撮影。もっと長い時間を共にしたなら、より打ち解けていろいろな話ができたといいながら、学校を後にしました。

昨年訪問したときは、3人とも子ども基金で支援する里子でしたが、この春、新しい里親の方と組み合わせをさせていただきました。今後、彼らが里親の皆さんとの交流を通して、勉強に励み、それぞれが思い描いている夢に向かって進んでいくことを願っております。

今後も、より多くの里子の元を訪問したいと思います。



左からヴィンくん、トゥーさん、ゴックさん。みんなで記念撮影しました

さかもと りょうこ  
(坂本 亮子)  
事務局長

## 2012年度春の木運動報告

### ドンズー日本語学校の 友人の皆さま

ドンズー日本語学校・「春の木運動」実行責任者として、ご協力してくださっている個人、団体、企業の皆さまに、心から感謝の意を申し上げます。勤勉である貧しい子どもたちに、貴重なプレゼントを贈ることができました。

「2011年度の春の木運動」で皆さまが寄付してくださった金額は193,295,100ドンで、前年度の164,799,700ドンを

足すと、358,094,800ドンになりました。

子ども基金の皆さまからの寄付金は私たちの期待以上で、より多くて、コートの準備が間に合わないほどでした。購入した1,387着のコートを、直接バック・ザン省、トゥア・ティエン・フエ省の少数民族の学生たちに、布団130セットをフートの少数民族の学生に贈りました。残金は2013年度の「春の木運動」に使います。南部には、18,200

冊(ノート)を孤児院とカン・ザー県の子どもたちに手渡してきました。これらのプレゼントは貧しい学生にとって、テトの楽しみと慰安のひとつです。そして、北部の学生は寒い季節に、暖かいコートを着て、元気に学校へ行くことができます。

貴重な春のプレゼントを頂いた学生に代わりまして、ドンズー日本語学校・「春の木運動」実行責任者、スタッフ一同、心より皆さまに感謝申

上げます。また、2013年度の「春の木運動」にも、ご協力をお願い申し上げます。

「春の木運動」実行責任者  
ドンズー日本語学校  
グエン・ドク・ハウエ



「2012春の木活動」に  
参加した感想

ヴ・クアン・ヂエウ・フォン  
ドンズー日本語学校学生  
活動を行った所：カン・ザー

まず、思い出に残る素敵なプログラムを用意してくれたドンズー日本語学校に感謝します。この活動のおかげで、先生から新しい言葉を勉強することができました。そして、シュン先生は熱意と教養ある人だと分かりました。孤児院の子どもにもプレゼントを贈っ

たときのことは、ずっと忘れません。子どもは大人しくて、礼儀正しかったです。子どもたちはきれいに列を作って並び、プレゼントをもらってから、私たちにお礼を言いました。言葉だけではなく、子どもたちはきれいな気持ちを持っています。大きくなっても、ずっときれいな心を持ち続けてほしいです。

それから、カン・ザーにある貧乏な家庭のことは、これから考えなければならない問題です。いくつかお金持ちの家庭も貧乏な家庭だと評価されていました。どのように改善すればいいのでしょうか。貧乏な人だけが地方政権とチャリティ組織から補助金もらうために、毎年貧乏な家庭のリストを更新したり、貧乏な家庭の基準を作った方がいいと思います。

同行したヴァン先生は、みんなに平等でした。ヴァン先生は全員の学生にノート10冊をあげました。ビン・カインのフェリーの中で、思いがけない人から親切にされ、私の心は温かくなりました。初め

て出会った、日本人のハクモさんは私がもうすぐ日本に留学することを喜んでくれて、「Eメールで連絡しなさい」と言ってくれたことがうれしかったです。

同行のヘットさんは現地の人の家で従業員と一緒にグアバや梅を食べたり、店長がおいしい食事を準備してくれたり、警察の車に乗せてもらったり、1台の車に25人が乗ったりしたことなど、全てがいい思い出になりました。

この旅は人間性を教えてくれました。私は、故郷の人に今までよりも興味を持ち、大切にしようと思いました。最後に、ドンズー日本語学校の校長先生、シュン先生、このような機会を作ってくれて、ありがとうございました。



## トゥンくんのその後

通信56号で2011年高校を卒業した元青葉奨学生のレー・ディン・トゥンくんが、日本に留学してきたことをお伝えしましたが覚えていらっしゃるでしょうか。彼は来日直後から、現在まで新聞奨学生として、早朝、夕方の新聞配達のアルバイトをしながら、毎日日本語学校へ通っています。この3月で来日1年が過ぎますが、これまでのトゥンくんと事務局のメールのやりとりを再構成した文章をご紹介します。最初は字数の少ないメールでしたが、

何度かやりとりするうちに日本語でメールを打つのに慣れてきたようです。

4月6日 坂本より

日本語学校へのご入学おめでとうございます。まずは第一歩ですね。手紙を送るのでトゥンくんの連絡先を教えてください。よろしくお願ひします。

4月17日 トゥンくんより

今週、日本語の勉強が始まります。勉強しながらアルバイ

トをするので、少し忙しかったです。来週の日曜日、私は坂本さんに手紙を届けるつもりです。今、私は携帯電話を買いました。携帯電話に連絡してください。

6月26日 トゥンくんより

お久しぶりですね！ お元気ですか。私は元気です。今まで、私は3カ月くらい日本に住んでいます。日本の生活に慣れました。日本語の勉強のことや仕事のことはよく進展しています。今は夏休みなので、学校が1週間休みです。そ

れで、仕事だけです。だから、今週、時間がたくさんあります。先週の日曜日、私はABKへドンズーの留学生の会議に参加に行きました。それで、近藤さんと会いました。しかし、私の日本語があまり上手ではないし、短い時間なので、私たちはあまり多く話せなかったです。今、日本人の話があまり聞きとれないので、私の大切なことは日本語が上手になるのです。だから、勉強の時間を増やそうと思っています。

#### 6月27日 坂本より

ご無沙汰しています。お元気ですか。毎日のアルバイトご苦労さまです。日本語、だいぶ上達したようですね。メールの文章が以前より長くなりました。トゥンくん自身は、まだまだと感じているようですが、4月のメールと比べると格段に上達しているのが分かります。次回ABKに来ることがありましたら連絡くださいね。

#### 7月6日 坂本より

こんにちは。その後、お変わりありませんか。7月になって暑くなってきましたね。里親さまと電話でお話ししました。お手紙はきちんと届いており、お住まいが遠いので東京に駆けつけることができないとのことでした。トゥンくんには、「大学合格まで、大変だろうけど今は全力で頑張ってもらいたい。大学合格したら3

人で会いましょう。それまでは集中して頑張ると伝えてください」とのことでした。里親さまも、トゥンくんのこと応援してくださっています。

#### 7月7日 トゥンくんより

こんばんは！ まず、里親さまのことはありがとうございます。里親さまのおっしゃることは分かりました。大学校に入るまで、私は一生懸命勉強したり、仕事したりします。この頃、暑くなってきたので、本当に、ちょっと大変ですが、いつも頑張ります。早く「子ども基金通信」をいただくことを希望しています。では、また連絡します。

#### 12月19日 トゥンくんより

お久しぶりですね。お元気ですか。長時間に坂本さんに連絡していなくて、本当にすみませんでした。さて、前日、私の友達に聞いたところ、10月の頃、坂本さんはベトナムへ旅行に行ったのだということを知りました。旅は楽しかったですか。ベトナムのどんなところが好きですか。ベトナムでは坂本さんの体験したことをちょっと聞きたいのですが…。ところで、最近、東京では寒くなっているによると、私の生活するのはけっこう大変になりました。今まで、私は一度も風邪をひかなくてよかったです。先日、私は日本留学試験と日本語能力試験のN2に受けましたが、まだ結果が出てきません。かなり忙しかったです。さらに、この頃、アルバイトでは毎週の日曜日だけ休みで、時間があまりありませんから、あまりABKへ行くことはできませんでした。しかし、学校の先生によると、来週から、私の学校が冬休みになりまして、私はABKへみんなと話しに伺い

たいですが、よろしいですか。何かあれば、ご返事してください。ありがとうございます。また連絡します。

#### 12月20日 坂本より

こんにちは。本当にご無沙汰しています。お元気ですか。本当に今年の冬はとても寒いですね。私も驚くほど急に寒くなりました。ベトナムとは全然気候が違うので、体調を崩さないようにしっかりご飯食べて栄養取ってください。それにしてもトゥンくんのメール、以前に比べて内容も豊富になって、勉強の成果が出ている感じがします。もう日本語能力試験を受けたんですね。結果がまだ分からないとのこと、ちょっとドキドキしますか。それとも、しっかり勉強したので自信がありますか。合格しているといいですね。さて来週事務所を訪ねてくれるとのことですが、火曜日か水曜でご都合はいかがですか。私と事務局で手紙の翻訳の手配をしてくださっているYさんという方がいらっしやいます。アルバイトもあると思うので、トゥンくんの都合のいい時間を教えてください。久しぶりなので会えるのととても楽しみです。それでは返信待ってます。

#### 12月20日 トゥンくんより

こんにちは。まず、私の生活にご関心持ってくださいありがとうございます。今の東京はけっこう寒いですが、私はまだ風邪をひかず、元気です。新聞を配っているとき、よく走っているので、あまり寒く感じませんでした。ところで、日本語がまだ上手にならず、日本語能力試験の結果について心配になります。これから、頑張ります(^-^)。先日ベトナムで青葉奨学金を





もらったチンさんという友達と連絡しましたが、チンさんもベトナム子ども基金の方と会い行きたいそうです。私たちは来週の火曜日に、ベトナム子ども基金の事務所へ行きます。それでは、また来週にお会いしましょう。

**12月26日 坂本より**

こんにちは。昨日は事務所まで遊びに来てくれてありがとうございます。子どもたちも楽しかったようです。お土産のコーヒー、早速いただいています。チンさんにも会えて本当によかったです。明るくて、前向きで、また会いたいです。

**12月27日 トウンくんより**

おはようございます。まず、昨日のメールの内容が分かりました。一昨日に、坂本さんは私たち歓迎してくださいましてありがとうございます。本当にうれしかったです。ところで、坂本さんはベトナム子ども基金の事務所のことが何かあれば、私に連絡して教えてください。できるだけ、私は坂本さんと子ども基金の事務所のことを手伝いたいです。それはギー先生の期待に応えることになります。

**12月27日 坂本より**

こんにちは。早速チンさんの連絡先を教えてくださいありがとうございます。

チンさんには私からも連絡してみます。まだ慣れないのでメールしにくいかもしれませんが、それにしても、トウンくんのメールの文章一日一日自然な感じになってきましたね。私はトウンくんにもメールを送るときに、読めるかどうか、理解できるかどうかまったく考えずに普通に文章を打っ

ているので、とっても楽です。子ども基金のお手伝い、今後お願いするとなったら、翻訳とかになるとと思いますが、まずは、大学入学目指して頑張ってください。また、お互い連絡しましょう。お休みの間はしっかり睡眠をとって体を休めてください。それでは良いお年を。

**12月29日 トウンくんより**

こんにちは。まず、子ども基金のことについて、アドバイスありがとうございます。これから、大学に入るために僕はもっと頑張ります。もし、時間があつたら、僕はぜひ子ども基金の事務所へ遊びに行きます。坂本さんに送るメールをよく書いていることのおかげで、たぶん、僕の日本語の文章が前より自然になると思います。だから、子ども基金のことで何かあれば、メールでご連絡してください。もし、僕のメールの文章が何か誤れば、教えてくれてよろしいですか。それでは、また連絡します。良いお年を。



2列目左トウンくん、右チンさん。スタッフの子どもと

\*\*\*\*\*  
12月25日にトウンくんは後輩のチンさんと一緒に事務局に遊びに来てくれました。2人ともつかの間の冬休みとすることで、少しゆっくりできるようですが、その日も早朝の

新聞配達のアルバイトを終え、また午後からは夕刊の配達があるので、時間はいくらあっても足りないようです。小さなメモ帳を持ち歩いていて、分からない単語を聞くとすぐメモ帳にメモしてスマートフォンで調べているのが印象的でした。

チンさんは9月に来日して3カ月ですが、明るく勉強に対して積極的に取り組み、生活にもずいぶん慣れてきたようです。よく聞いてみると、日本で青葉奨学会を支援しているほかの団体の里子だったことが分かり、後日そちらの団体に連絡して里親の方を探してもらおう約束をしました。

2人とも日本の寒さにはだいぶ慣れたとのことですが、東京でも雪が降ることがあるんだよと言うと、ええ信じられないと驚いていました。それから2人ともアルバイトが新聞配達なので、本当に雪が降ったらどうしようと少し心配顔。それから、ひと月もたたないうちに首都圏は大雪に見舞われて、大パニックになりました。そのときの感想はまた次号で紹介します。

ひとしきり話をした後、クリスマスということで、出来合いのお総菜を買ってきて、みんなでささやかなクリスマス会を楽しみました。

さかもと りょうこ  
(坂本 亮子)  
事務局長



# ベトナムのお正月

ベトナムで一番楽しい日。それは間違いなくテト。ベトナムの年間行事は旧暦が用いられることが多く、テトというのは旧正月のこと。最近では、新暦の1月1日もかなりの盛り上がりを見せており、旧正月を廃止しようという提案もちらほらあるそうだが、「そんなことはお上が許しても、オイラは絶対許さねえ」と庶民が納得するはずがない。日本で一番盛り上がる日はいつかと聞かれると返答に困るのではないかと思うが、ベトナムは間違いなくテト。この日のために1年間生きてきたといっても過言ではない。

ホーチミン市内では、クリスマス1週間前から街中にイルミネーションが飾られ、徐々に年末ムードが高まる。乾季初旬で雨の心配がなく、それでいて涼しいという最高の季節。クリスマスが終わると日本では正月モードに衣替えするが、ベトナムではそんな雰囲気はみじんもなく、電飾はどんどん増えていく。楽しいクリスマスが終わることなく、逆に日増しに気持ちが高揚し、なんて素敵なんだろうと思わせてくれる迎春。

正月が終われば落ち着くかと思いきや、ところがどっこい終わらない。騒ぎ疲れたせいか、1週間くらい大人しいものの、徐々に飾りが増え、街がどんどん華やかになっていく。北部は桃の花、南部は黄色の梅の花を飾る習慣があり、装飾品もこれらの花を模したものが多い。

テト1週間くらい前になると、いよいよ本番間近。ベトナム人のそわそわ感が肌で感じられ、こちらまで落ち着かない。市内にある大きい公園や道端には花市ができ、桃、



梅、菊、ひまわり、きんかんなどが売られる。黄梅は、テトに満開になるのが良しとされ、テト前に咲き誇らないよう、さりとて咲かずにテトを迎えることがないよう、ちょうど良い頃合いを見極める目利きが必要とされ、買う人の目は真剣そのもの。普段、仕事もせずにコーヒー飲んで将棋打ってるおっちゃんも、このときばかりはマジになる。購入した花は、門松みたいな感じで玄関に飾る。

テト2日前、家に飾る花やテトの食べ物、お供え用果物の買出しなどで市場は大にぎわい。特に欠かせない果物はスイカ。通常、ベトナムのスイカは楕円形だが、この時期だけは日本と同じ丸いスイカが出回る。切ったときに赤ければ赤いほど吉とされ、1年の運勢を占う意味で重要な役割のスイカ。なので、ここでも真剣勝負。両手で持って重さを比べたり、外見をチェックしたり。「どれを買っても味は同じじゃないの」みたいな茶々を入れると、「あんだ



黙ったとき」と言わんばかりににらまれる。

テト前日。午前中は買出しラストスパート。買い忘れた物を買に行ったり、公園では花市が最後の大売出し。師走とは、先生も走るくらい忙しいといわれているものの、実際に先生が走り回って忙しいにしているところは見たことがない。ところが、テト前日は「なるほど、これが師走という意味か」と納得する慌ただしさ。バイクから降りる時間ももったいないと、バイクに乗ったまま花を購入する。多分、昔の日本も正月前はこんな感じで忙しかったんだろうと思う。



午後4時頃になると、嵐の前の静けさというべきか、所狭しと歩道にまではみ出して走っていたバイクや車が消える。店も閉まる。人も消える。街の生気が感じられないくらい静寂が一瞬漂う。

午後7時。いなくなった人が徐々に増え始める。市内6カ所で打ち上げられる花火を見に行くための移動で、時間とともに数が増え、夜11時くらいになると動くことすらできなくなるくらいの人々が花火会場に集まる。付近では、獅子舞がにぎやかに舞い、太鼓の音に心躍らせ、少年に戻り胸をときめかせて花火を待つ。1分前からカウントダウンが始まり、12時ちょうどに花火

が上がる。以前は爆竹を鳴らしたそうだが、危険なため現在は禁止となっている。日本と違い、花火が3種類くらいしかないのが寂しいが、打ち上げられている15分間「今年はどんな年になるのかなあ〜、良い年になったらいいなあ〜」と思いながら夜空を見上げる。

花火が終わると、ここからが大忙し。バイクで初詣に出かける。人によってさまざまだが、3つくらいお寺を回るのは当たり前で、多い人になるとひと晩に10くらいお寺を回る。私は4つでギブ・アップしたが、熱帯気候なのにバイクに乗っていると意外と寒く軽装だとつらい。また、線香が日本と違い大きいので、煙がすごい。服が線香臭くなる

のはもちろんのこと、煙で目が痛くなり涙が出てくる。

朝まで初詣で走り回った後、お菓子を食べながら一家だんらん。しょうがやココナッツ、蓮の実などの砂糖菓子。ひまわり、スイカの種などが定番。スイカとひまわりの種は、食べるのが面倒くさい上に味もなく、おいしいとは思えないけど、これをポリポリかじり

ながらみんなでわいわいしていると、いつの間にか種が育って話に花が咲く。

家族や友達と過ごす時間を大切に、明るく楽しく過ごすのがベトナム流お正月。年末からの2カ月間をじっくり楽しむ。そのフィナーレがテト。こんな素敵な時間の味わい方が理解できたら、ベトナム人の心に急接近間違いなし。



いとう はるひこ  
(伊藤 晴彦)  
ドンズー日本語学校教師



ベトナムからの手紙(里子手紙)は、今回お休みします。

## ●事務局から

◆ご入金報告 ご支援ありがとうございます(順不同・敬称略) (「新」は新規会員)

2013年1月 里親基金

(新)  
賛助基金

一般基金  
黄梅基金

2013年2月 里親基金

賛助基金

黄梅基金

2011年11月 サダンろう学校(ハノイ)へボールペン寄付  
(ご報告が遅れて申し訳ありません)



◆ベトナム子ども基金会員募集! (友人・知人をお誘いください。ご協力をお願いします!)

里親基金：年額1口 20,000円 学生会員：年額1口 10,000円	特定の子どもに「里子」として奨学金を支給する「里親」になっていただきます。ベトナム青葉奨学会から、子どもと家族の状況を説明する履歴票が届き、里子との手紙のやりとりができます。
一般基金：年額1口 12,000円	子どもたち全体の「里親」という関係を想定しています。通信を通じて会の運営報告、子どもたちの様子などをお伝えします。
賛助基金	一般基金に準じます。金額、回数などいっさい自由です。
学校建設黄梅基金	青葉奨学会と相談の上、ベトナムの辺地に学校を建設します。該当学校に青葉奨学金を併設することも可能です。
個別黄梅基金：1口30万円以上	個人またはグループで黄梅基金を設立し、預金利子を奨学金とします。基金の名前、支援地域・学校等は、ご相談の上決定します。
ベトナム黄梅基金：1口10,000円	複数のベトナム子ども基金会員で基金を設立し、預金利子を奨学金とします。

ベトナム子ども基金へのご寄付は、下記の口座をお願いいたします。

口座名(共通) 特定非営利活動法人ベトナム子ども基金 (カナ): トクヒ)ベトナムコドモキキン  
 里親基金用(一般、賛助基金を含む)  
 郵便振替 00100-6-546799 銀行(みずほ銀行駒込支店) 普通1121865  
 黄梅基金用(個別寄付、学校建設を含む)  
 郵便振替 00130-4-552361 銀行(みずほ銀行駒込支店) 普通1121873

◆事務局だより

2013年も早3カ月がたとうとしておりますが、皆さまお変わりありませんか。首都圏では冬の寒さから一転、5月の陽気になったりと体調管理が難しい時期が続いております。

前号の発行が大幅に遅れたため、今年度の通信発行が3回にとどまり、ベトナムの子どもたちの状況や子ども基金の活動を見守ってくださっている皆さまには大変申し訳ありません。通信発行につきましては、これまでの体制を改め、月1度の運営委員会で編集会議を行い、より確実に発行していくため運営委員全体でフォローして参ります。

さて、前号でお知らせいたしました、春の木運動に関する協力ですが、2月9日(土)文京区国際交流フェスタに参加し、ベトナムコーヒーを提供して、ご来場の方々からご寄付を募りました。その結果、昨年約2倍、ノート約680冊分のご寄付を募ることができましたことを報告いたします。また、2月にベトナムの旧正月テトがありました、その時期に合わせて、子ども基金から里子たちを励ますための絵ハガキを送りました。その際は、写真を提供してくださったフイさんをはじめ、デザイナーの方にもご協力いただき、ここに改めてお礼申し上げます。子ども基金の活動や、日本について興味を持ってもらうため、来年も里子たちにハガキを送る予定です。

さて、3月22日より会員の方々とホーチミン、ハノイおよびその周辺を訪問するスタディーツアーを行います。現地では、里子訪問、関係者や里子との交流、学校施設を訪問します。また、今年度のその他の支援事業として、障害児教育研究センターを訪問し備品と、教材の支援を行います。詳しい内容につきましては、次号以降で報告しますのでお楽しみに。(坂本)



テトの絵はがき：里子へのメッセージ(左)。右は夜の姫路城(写真：Pho Ba Quoc Huy)  
 ベトナムはそろそろテトの季節ですね。この時期、日本は1年の中で最も寒い季節です。雪もところによってはたくさん降ります。しかし、3月の末頃から南の方から春が訪れ、桜が咲き始めます。  
 みなさんにいいテトが訪れ、充実した新しい年を迎えられますように、お祈りします。  
 ベトナム子ども基金(東京)

訂正:通信57号に掲載した記事「ドウ・レ・ギーさんと私」の筆者の木塚さんのお名前を、誤って掲載いたしました。正しくは木塚晴夫さんです。ここにお詫びして訂正いたします。申し訳ございませんでした。

会員総会告知

2013年定期会員総会を下記の日時で開催します。総会議案につきましては、次回の通信に詳しく掲載いたします。

日時 2013年6月15日(土)午後2時より  
 場所 アジア文化会館